

平成30年度 第1回 胆振圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会 議事録

開催日時	平成30年12月18日(火) 13:30~15:00
開催場所	胆振総合振興局 2階 保健環境部 会議室
出席者	地域づくり推進員 岩本浩吉 地域づくり委員 今 順子 三浦幸三 堂前文男 園田亜矢 澤山麻由子
事務局	胆振総合振興局保健環境部社会福祉課 主査 澤田卓也 胆振圏域障がい者総合相談支援センターるびなす 地域づくりコーディネーター 大竹保彰 地域づくりコーディネーター 國松直人
議題	<p>1 在宅の「重症心身障害児」及び「医療的ケア児」に関する調査の実施結果について</p> <p>【事務局(澤田)】 ・資料に基づき調査結果の概要について説明</p> <p>-----</p> <p>【堂前委員】 ・これまでの委員会の議論の中で想定される調査結果となったと思う。 ・白老町の協議会等に参加しているが、白老町からは対象児がいないと言われるが、6町はどのような回答状況か。</p> <p>-----</p> <p>【事務局(澤田)】 ・受け入れができないといった回答や回答そのものがなかった状況である。</p> <p>-----</p> <p>【堂前委員】 ・地域づくりコーディネーターの活動の中では、町には医療的ケアを必要とする対象者が地域にはあまりいないと考えているか。</p> <p>-----</p> <p>【大竹Co】 ・市町訪問は3カ月おきに行い、各種聞き取りをしているが、困難事例として重症心身障害児や医療的ケア児の話は出てこない。 ・潜在的にはいるのかもしれないが、実態は把握できていない。</p> <p>-----</p> <p>【堂前委員】 ・実態が把握できていないと、新たな事業所の立ち上げに結びついていかない。 ・調査の結果は、当初の想定どおりニーズのあるところに必要な事業所がないという結果が出ていると思うが、ニーズに対応するための体制づくりの参考としては難しい。</p> <p>-----</p> <p>【大竹Co】 ・親御さんが健在である現状では問題ないが、将来的に親亡き後に備えて、どのような支援があるかといった相談はある。</p> <p>-----</p> <p>【三浦委員】 ・保健師が関わる検診の場を活用すれば潜在的な対象者を把握できると思う。</p> <p>-----</p> <p>【園田委員】 ・全体の回答率はどれくらいか。</p> <p>-----</p> <p>【事務局(澤田)】 ・全体では回答率は、30~35%程度、児童発達支援は30事業所のうち12事業所、放課後等デイサービスは39事業所のうち14事業所、通所介護は50事業所のうち14事業所、地域密着型通所介護は69事業所のうち9事業所から回答、日中一時支援は市町によって事業所の考え方が違うが4事業所から回答、保護者からは3件の回答があった。</p> <p>-----</p> <p>【今委員】 ・なぜ回答率が低いのか。</p>

<p>【事務局（澤田）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政で行う医療的ケアに係る調査でも回答率が低い。今回の調査でも、これまでの委員会の意見から最初の設問の入り方を工夫したが、高い回答率とはならなかった。</li> </ul>
<p>【岩本推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国、道、字関係団体などから色々な調査があり、事業所によっては、多忙により回答している時間がなかったりする場合もあると思う。</li> </ul>
<p>【園田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア児などに関する相談を受けたことがないので回答しないなどが考えられる。</li> </ul>
<p>【堂前委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障害児や医療的ケア児に関する相談などが無いから、自分たちの事業所の範疇ではないという考えもあるのではないかと。</li> <li>・回答率が悪く、調査としての精度は低いが実態は表れていると思うので、この結果を関係機関等に情報提供することが良いと思う。</li> </ul>
<p>【事務局（澤田）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障害児や医療的ケア児の支援に向けた検討のきっかけになればと考えている。</li> </ul>
<p>【岩本推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2-8で医療的ケアを必要としない短時間の受け入れを可としている事業所は、どのような状況か。</li> </ul>
<p>【事務局（澤田）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアを行える職員が配置されていないため、医療的ケアを要しない限られた時間の受け入れを行っており、医療的ケアの必要がある時間帯がある場合は、親御さんが同伴して対応している状況である。</li> </ul>
<p>【三浦委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の面から考えると、医療的ケア児の支援をしたくても看護職員を雇用できるだけの報酬になっていない。</li> <li>・看護職員を配置している介護保険事業所が共生型事業の指定を受けてもらうための啓発も必要と思う。</li> </ul>
<p>【岩本推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生型事業については始まったばかりであり、認知度が低いのではないかと。</li> </ul>
<p>2 障害者差別解消法認知度調査の実施結果について</p>
<p>【堂前委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者や関係者を対象とした調査で3割程度の理解であれば、一般の人にはほとんど理解されていないし、関心がないのではと思う。</li> <li>・今後、広報活動などを進めていくことが必要と思うが、国では2020東京オリンピック・パラリンピックに関連して、心のバリアフリーに関する動画を作成しているので、そのような動画などを活用して各地域において研修などが開催されていけば思う。</li> </ul>
<p>【今委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JRを利用する機会が多いが、心のバリアフリーということでは、車内の通路を車いすで通ることが難しいことを理解している人が少ないと思う。特急もすすらは良いが、北斗は狭くて車椅子から座席に移乗もできない。</li> <li>・以前は、障がい者等への配慮のステッカーが貼られていたが、現在は廃止されている。</li> <li>・JRに確認したが障がいのある方から、ステッカーを貼ることで差別の助長につながるなどの訴えがあり、廃止したとのことであった。</li> </ul>
<p>3 平成30年度胆振圏域障がい者虐待防止・権利擁護研修の開催について</p>
<p>【事務局（澤田）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき開催概要について説明（※）質疑応答はなし</li> </ul>